

編集後記

一時は冷害も心配された今年の夏であったが、7月の半ばからは急に暑くなり、東京ではこのところ真夏日・熱帯夜の連続である。前号にひきつづいて「高次脳機能障害」の特集（その2）をお届けする。

日本語は世界にも珍らしい表音と表意の二重の文字体系を有しているため、失語症その他の、言語に関連する障害の際に非常に特徴的な障害像を呈することが世界的にも注目されている。それが「漢字・仮名問題」であるが、大東氏には失読と失書の問題をこの角度を中心に詳しく論じていただいた。氏の結論ともいうべき「結局の所、漢字・仮名問題とは、失読や失書に関するより普遍的な本態に迫るための1つの契機として我々に与えられた課題の1つではないか」という言葉は味読すべきものである。平井氏・他の Motor Impersistence は、最近注目されている劣位半球症状でリハビリテーション上の機能障害としての意味も大きい本症状について詳細に

述べていただいた。杉下氏の「離断症候群」は神経心理学の最近のもっとも大きなトピックともいえるもので、高次脳機能障害の本態の理解に資するところ大であると思われる。公募による症例報告も、多彩なテーマのものが4本そろい、公募以前によせられた横山氏・他の研究と報告ともあわせて本特集を内容豊かなものにしていただけた喜んでる。

「上肢の機能解剖」の講座は今号で完結し、次号からは「脳波とリハビリテーション」の講座がはじまる。その他の講座、症例報告等も内容豊富なものばかりである。大田氏の貴重な提言を含んだ巻頭言にも感謝したい。

7月24日小池文英氏が長逝された。緊急に追悼文をお願いし、短期間に書きあげていただいた津山、坂口の両氏に感謝するとともに、読者とともにわが国におけるリハビリテーション医学の大先達のご逝去を心からお悼みしたい。

（上田 敏）

次号予告（第11巻 第10号）

特集 リハビリテーションと法律

まえがき：リハビリテーションの法体系

について考える……………拓杏園（仙合） 今 田 拓

身体障害者福祉対策における医療の

諸問題……………日本社会事業大学 板 山 賢 治

障害児に対する法体系……………埼玉身障センター 五 味 重 春

労働省災害補償保険法とリハビリテーション……………産業医大 緒 方 甫

<座談会> 老人健康法

司会：今田 拓・森 仁美、田中荘司、河野康徳、安井博和、中山 章

障害者と年金……………都立福祉センター 磯 部 博 明

巻頭言 なぜリハビリテーション

か？……………心身障害児総合医療センター 坂 口 亮

研究と報告 脳卒中患者が自宅退院するための

医学的・社会的諸条件……………代々木病院 二 木 立

リハ施設における脳卒中患者家族の心理：

入退院時における身体障害の変化と家庭環境

の心理の影響について……………鹿大霧島分院 川 平 和 美・他

症例報告 大腿切断肢に骨折を生じた

2症例……………慶大月が瀬リハセンター 里 宇 明 元・他

紹介 オーストラリア・The Spastic Center of

N.S.W 方式による “Sounds and Symbols”

について……………南大阪療育園 広 川 律 子

講座 CT（10）：四肢：腫瘍性病変を中心として……………自治医大 吉 田 輝 明・他

脳波とリハビリテーション（1）：臨床脳波検査

の基礎……………日通東京病院 江 部 充

一頁講座 スプリント（10）

リウマチのスプリント（その1）……………七沢病院 岡 崎 健

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加 倉 井 周 一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
（五十音順）

（細田，山田）